

# 野研びより

植物編 7号  
野外生物生態調査研究部 植物班  
2016年12月

ヤブツバキ *Camellia japonica* L.

ツバキ科 ツバキ属

分布 青森以南

開花時期 2～4月 (果実は秋になる)

ヤブツバキは常緑高木であり、日本の照葉樹林を構成する植物の中でも代表的な種である。葉は淡緑色、楕円形で厚く硬い、クチクラが発達しているため光沢がある。葉の長さは7cm～12cm、幅が3～6cmである。また、互生で鋸歯があり側脈は先の方が分かれている。花弁は通常5枚で基部は合着し、花とも合着しているので花と一緒に落下する。

宮崎大学周辺には学生寮付近、農学部棟の中庭付近などに植えられている。

ヤブツバキには様々な園芸品種があり、花の色、形状、などが異なった鮮やかな花を咲かせる。

## サザンカとの相違点

ヤブツバキと言えばサザンカと類似していることが有名です。

サザンカもヤブツバキと同じくツバキ属に属する。しかし、以下のような見分け方が存在する。

- 1.ツバキは花を落とすときは花弁を落とさずにそのまま花が落ちるが、サザンカは花弁落とす。
- 2.葉の長さがヤブツバキの方が大きく、大きいもので10cm以上あるが、サザンカは小さく大きくても7cm程度である。
- 3.花の開花時期が異なり、ヤブツバキの方が11月～12月または2月～4月、サザンカの方が10月～12月に花をつける<sup>1)</sup>。



図1.ヤブツバキ<sup>2)</sup>

### 参考文献

1)川崎 吉光 (2000) 山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花 離弁花2 山と溪谷社

2)季節の花300 椿写真集2 <http://www.hana300.com/yabutu2.html>